

集団生活デビュー

“楽習”的 春！わくわくドキドキ

0・1・2歳

おうちの方とのつながりが強い年代ですが、保育園に通い始めたり、習い事を始めたりして初めての集団生活を経験することも。成長するにつれて、友だちの様子にも興味をもち始め、少しずつ世界が広がっていきます。

＜保育園＞

＜習い事＞

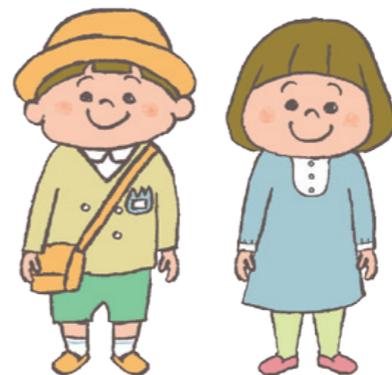


3・4・5歳

幼稚園入園が集団生活デビューになる場合はもちろん、保育園でも先生や教室が変わると、新しい環境に慣れるまではある程度の時間がかかります。でも、慣れてくると、友だちとの遊びがますます充実してくる年代です。

＜幼稚園＞

＜保育園＞



6歳から

子どもだけで登校する、学習が始まるなど、入学を機に「初めて」の経験が増える時期です。学童保育を利用する場合は、学校と学童それぞれのルールを覚える必要があるため、親子で一つずつ確認していきましょう。

＜小学校＞

＜学童＞



保育園では



ママと離れる
さびしさに共感を
示しながらサポート

家では



笑顔の会話と
スキンシップで
楽しいひとときを

0・1・2歳



友だちの様子を見ながら
興味を広げていく時期

この年代ではまだ自分の気持ちを上手に伝えることはできませんが、周囲の大人が「こうしたいんだね」と気持ちを言葉にしてあげれば、「コミュニケーションの楽しさを感じられるようになります。友だちが取り組んでいる様子を見ることで、おうちでは興味を示さないことに対してでもやる気が出るケースも少なくありません。集団生活デビューをきっかけに、家族以外の人とふれあうことの楽しさを親子で味わえるといいですね。

お話を聞きしたのは



伊東 瞳先生

神奈川県川崎市の小学館アカデミーキャリアや保育園で、保育士としてこれまで主に2歳児のクラスを担当。自我が芽生える年代の子どもの気持ちに寄り添う保育を実践している。



習い事

みんなで過ごす楽しさを
親子で体験する場に

親子クラスでは、「できる」「できない」を比較するのではなく、みんなで一緒にお互いの成長を喜び合うことが大切です。お子さまのペースを尊重し、友だちと一緒に何かができたとときの喜びを味わえるような声かけをしてあげましょう。お子さまだけで受講するクラスでは、おうちの方が不安だとお子さまも心細くなってしまうので、「大丈夫だよ」とやさしく背中を押してあげてください。

お話を聞きしたのは



ミキハウスキッズバル
木村桂子先生

ミキハウスキッズバル吉祥寺東急教室で講師を務めるかたわら、講座カリキュラムの作成や講師の研修も手がける。長年、幼児教育に携わり、ドラキッズでの講師経験もある。

POINT 3

体調の変化に気を配り
連絡帳をこまめに活用する

POINT 2

うまくできなくても
やるうとした意欲をほめる

POINT 1

お子さまの「こうしたい」という
気持ちを受け止める



POINT 3

入園直後は疲れやすいので
休日あまり無理をさせない

POINT 2

「いざずれできるようになる」と
あせらず長い目で見守る

POINT 1

一対一で向き合う時間を作り
たっぷり甘えさせる

園で過ごしている間、お子さまはいろいろなことをがんばっているのに、帰宅後や休日にはおうちの方に甘えられる時間を作ってあげましょう。抱きしめる、頭をなでる、ひざの上に乗せるといったスキンシップを交えながら、おうちの方に笑顔で話しかけてもらえると、お子さまは安心感を得られます。

お話をお聞きしたのは

小学校について

大野久仁子先生

東京都北区の堀船小学校にて主任教諭を務める。さまざまな学年において豊富な指導経験を持つことから、児童や保護者からの信頼も厚い。



学童について

吉田真由美先生

東京都墨田区の八広児童館学童クラブに勤務。自らも3児の母として学童保育を利用した経験を活かし、将来の自立につながるサポートを心がけている。

6歳から



入学当初は学習より生活に目を向けてがんばりをほめて

新しい先生、初めての授業など、小学校入学を機にお子さまを取り巻く環境は大きく変化します。おうちの方は学習のことが気になるかもしれませんが、ひとりで登下校や持ち物の準備ができるようになるなど、生活面においても大きく成長する時期です。お子さまのがんばりをほめ、給食やトイレといった生活に関することでつまづいていることがないか、困ったことを先生に伝えられているかにも気を配ってあげましょう。

家では



自分の気持ちを伝えるように
しておくことが大切

「困ったときは自分の気持ちを伝えようね」と声をかけ、気になることがあれば遠慮なく連絡帳で担任に相談を。ひとりで起きたらなど生活の中でできたことをほめると、小学校生活での自信につながります。和式トイレの使い方は公共施設で慣れておくといでしょう。

- POINT 1 安心して生活できるよう常に寄り添ってサポート
- POINT 2 五月に運動会がある場合は心身の疲れに特に配慮を



小学校では



学校での学習や生活の決まりを教え遊びも先生がサポート

入学してしばらくは、話の聞き方や返事の仕方などの学習の決まりや生活のルールの指導が中心になります。一年生の担任は登校から下校までずっと子どもに寄り添って生活し、休み時間も先生が鬼ごっこなどの集団遊びに誘うようにして友だちづかりをサポートします。

学童では



家庭と同じように安心できる居場所づくりを

職員は「おかえり」という言葉でお子さまを迎え、学童がおうちと同じように安心できる居場所になるよう、一人ひとりに声をかけていきます。また、「次は何をやるのだろう」という不安を解消するために、何時から何をやるかという先の見通しも伝えていきます。

- POINT 1 一人ひとりの性格を見極め楽しめる遊びを提案
- POINT 2 おやつや自由遊びなどリラックスタイムを充実



家では



他の子と比べず成長した点をほめて

他の子と比べてできていないことを注意するのではなく、「前はできなかったことができるようになったね」と、本人の成長を認める声かけをしてあげましょう。宿題は学童で済ませていても、わが子の学習理解度を把握するためにも、帰宅後におうちの方が必ず確認を。

3・4・5歳



先生との関係が築ければ遊びを楽しめるように

入園・進級直後は不安でいっぱいでも、園の先生との間に信頼関係が築けると、周囲の友だちのことも関心をもてるようになります。言葉で意思疎通ができる年代なので、夏を迎える頃には友だちと助け合いながら遊びを楽しむ様子がよく見られます。3歳のうちは、列に並び、持ち物をロッカーに片付けるといった集団生活のルールにとまどうこともありませんが、自然と身についていくのでおおらかに見守りましょう。

お話をお聞きしたのは



岡本陽子先生

幼稚園教諭を11年間勤めたのち、現在は保育士として小学館アカデミーカリヤド保育園に勤務。障がい児保育に携わったこともあり、0歳から5歳まで幅広い年代の保育経験をもつ。

幼稚園では



「対一の関わりで見ていてくれる」という安心感を

初めての集団生活なので、4月から5月にかけては緊張して自分の気持ちを伝えられないお子さまも多く見られます。お子さまが「先生は自分のことを見ていてくれる」という安心感を抱けるよう、先生との「対一」でのコミュニケーションを増やすようにしています。

- POINT 1 クラス全体だけではなく一人ひとりに気を配る
- POINT 2 気持ちをくみ取る声かけで「見ているよ」と伝える



家では



困ったことより楽しかったことを話せる聞き方を

お子さまとの会話では「友だちとケンカしてない？」と困ったことを尋ねるより、「今日は何を遊んで遊んだの？」など園での楽しかったことを話せる聞き方をするのがおすすめです。おうちの方が笑顔で話を聞いてくれることが、お子さまには何よりの励みになります。

保育園では



新しい教室や担任に慣れるまでの不安を受け止める

先生が変わったり、新しい友だちが加わったりとすると、緊張して自分の気持ちを言いにくくなるお子さまもいます。不安を受け止め、お昼寝の準備など生活面での取り組みは急にはやり方を変えるのではなく、「少しずつ自分でやってみよう」と声をかけていきます。

- POINT 1 新しいクラスに慣れるまで不安な気持ちに寄り添う
- POINT 2 自分でできることを「少しずつ」増やしていく



家では



進級による変化に気を配り園との連絡をこまめに

進級時、おうちの方は「保育園には慣れているから大丈夫」と考えがちですが、担任や教室のフロアが替わることはお子さまにとっては大きな変化です。園での出来事について親子で話す時間を作り、気になる点があれば連絡帳などで早めに担任に伝えておきましょう。